

関係各位

大田区立入新井第四小学校長 前川 忠彦

令和6年度 学校評価に係る学校関係者による評価について

大田区における学校評価は、教職員が行う自己評価と保護者、地域住民等により構成された学校関係者評価の実施によって進めています。

自己評価は、おおた教育ビジョンに基づき、取組指標や成果指標を設定し、その評価を実施します。また、学校関係者評価は、地域教育連絡協議会（コミュニティ・スクール導入校は学校運営協議会）が行い、学校の教育活動の観察・意見交換及び、自己評価の結果の妥当性を評価いただくことで、学校と地域の連携・協力を図ります。これらの学校評価の結果を次年度の学校経営改善に生かし、マネジメントサイクル（PDCA）を確立します。

つきましては、下記の通り、学校関係者による評価について御協力賜りますようよろしくお願いいたします。

記

項目	目標	学校記入欄				学校関係者記入欄	
		目標に対する成果指標		成果 評価	これまでの取組 今後の改善策	評価	コメント
個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	タブレット端末を「問題解決ツール」、「文房具」、「ドリル」「コミュニケーションツール」として、活用できる児童の割合	4:80%	4	（96.4％の肯定的意見） アプリを使用したノートづくりや共同作業のほか連絡帳機能へ活用した。また「デジタルドリル」や「デジタルテスト」にも活用の幅を広げた。 次年度も継続して、活用の幅を広げていく。	A ・ B ・ C ・ D	保護者97.4 教員3.2と3.1 タブレットの活用が大きく進展し、上手く活用していると感じる。この一年で、学校の授業スタイルが変容しているのを感じる。
			3:70%				
			2:60%				
			1:50%				
個別目標2 世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	「SDGs」をテーマにした探究的な学習を通して、持続可能な社会の創り手として、地域愛を育み、地球規模の課題に向き合う国際協力への意識を高め、地域の一員としての貢献意識をもつ児童の割合	4:70%	4	（94.2％の肯定的意見） 学校としてテーマを1つに絞ったことにより全校的な取組に向かうことができた。しかし、調べ学習に向かう割合が小さくなく、実体験の伴った自分事として具体的な取組に向かっていく。	A ・ B ・ C ・ D	保護者91.6 教員3.0 地域との連携を深めた新しい取組が見られた。こうした取組を継続して、将来の地域の担い手に成長してほしい。
			3:60%				
			2:50%				
			1:40%				
個別目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	外部人材（ゲスト・ティーチャー）の特別授業を受けて、自己をアップデートする“学びに向かう力”を身に付けることができたと回答した児童の割合	4:80%	4	（88.1％の肯定的意見） 範となる人物（スペシャリスト）との出会いというホンモノ体験により、大人や未来への憧れをもたせた。 年間10人以上、20時間の活用を目標に掲げたが、その達成度は4学年に留まった。	A ・ B ・ C ・ D	保護者83.7 教員2.7 大変なことで苦労も多いと思うが、こどもたちにとって非常に価値のある取組なので、目標を達成してほしいと願っている。
			3:70%				
			2:60%				
			1:50%				
個別目標4 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	教員の専門性や特技を生かした一部教科担任制を導入しての指導力向上により児童は統一された指導を受けることによって安定して学習に取り組み、授業が分かりやすいと回答した児童の割合	4:80%	4	（94.5％の肯定的意見） 3年生以上で社会と理科の交換授業による一部教科担任制を実施した。一体的な指導と評価を行い、児童は安心・安定を図ることができた。次年度も継続するとともに、単元毎の交換授業も取り入れていく。	A ・ B ・ C ・ D	保護者94.2 教員3.1と3.2 今までにない取組で、小学校での効果に興味があった。順調に取り組めていて、さらに評価が高いので安心できた。
			3:70%				
			2:60%				
			1:50%				
個別目標5 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	様々な活動を充実させ、成功体験を通して、自尊感情を育てることにより「やれば、できる」という努力の価値を感じた児童の割合	4:80%	4	（91.5％の肯定的意見） 校外学習や移動教室のほか係活動や当番活動など体験活動を充実させることによって、その成長の機会を確保し成功体験を通して、「やれば、できる」を感得させ、自尊感情が育てた。	A ・ B ・ C ・ D	保護者97.3 教員3.3と3.2 こどもたちにとって、良い活動だと感じる。
			3:70%				
			2:60%				
			1:50%				
個別目標6 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	タブレット端末を使用した学習環境、校内掲示物の充実を図り、学校で楽しく学習できると回答した児童の割合	4:80%	4	（91.4％の肯定的意見） タブレット端末の使用では、写真や動画撮影の活用で低学年でも可能であった。 しかし、教員の校内掲示の充実は50％程度の達成率であった。年間計画を立てて改善を図る。	A ・ B ・ C ・ D	保護者93.2 教員2.7
			3:70%				
			2:60%				
			1:50%				
個別目標7 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	分かりやすい学校便り、ホームページの100回更新、「まなびポケット」を活用した電子書類配信を通したり、地域行事との連携を図ったりする中で、学校と地域・保護者との連携が深まったと回答した保護者の割合	4:80%	4	（91.1％の肯定的意見） ホームページは1月15日時点で274回の更新を達成し保護者からも日々の様子が分かりやすいと好評である。 ただ電子書類での配信は賛否あり、今後も理解を得ていく必要がある。	A ・ B ・ C ・ D	保護者91.1 教員2.1 本当に日々のこどもたちの学校での様子が分かりやすく、保護者からも評価が高い。
			3:70%				
			2:60%				
			1:50%				
			3:				
			2:				
			1:				

※ 評価は、A：自己評価は適切である B：自己評価はおおむね適切である C：自己評価は適切ではない D：評価は不可能である の4点で評価する。